

資料館だより

第 26 号
令和4年3月



《巻頭写真》市内で観察されたトラフズク(関連6～7ページ)

目 次

目次・巻頭写真	1
柴崎町にあった軍需工場	2
立川市に出現した希少な動物について	6
令和3年度 資料館・古民家園の催し	8

柴崎町にあった 軍需工場

立川市文化財保護審議会委員 白川重敏

戦時中、柴崎町には製糸工場があり、その後通信機器会社に転用され、軍需工場の疎開工場となっていたことを知っている方がどれほどいらっしゃるでしょうか。ここには地方から高等女学校の生徒達や近所の未婚女性達が、女子挺身隊として数多く派遣されていました。軍需工場であったゆえに、1945（昭和 20）年 8 月 2 日にアメリカ軍の B29 爆撃機による焼夷弾爆撃の空襲を受け、工場のみならず周辺も甚大な被害を受けることになりました。

◆東京社

（東京繭糸販売組合連合）

柴崎町の南側、立川段丘の下には東京繭糸販売組合連合立川工場（通称東京社）という製糸工場があり、1940（昭和 15）年当時、116 名の工員が働いていました。

戦前の立川は、砂川地区や立川駅南口一帯は養蚕業が盛んでした。現在の柴崎町立川市立第一小学校の体育館・学習館辺りに、1916（大正 5）年、東京府原蚕種製造所（写真 1）が設置され、養蚕の試験・研究や技術指導を行い、養



写真 1 東京府原蚕種製造所

蚕振興の中心的な役割をしていました。その技術指導のもとで現柴崎町・富士見町・錦町の養蚕農家で作られた蚕の繭がここ東京繭糸販売組合連立川工場に集められ、生糸に生産されて軍に納品されていました。

東京社には繭から糸を取り出すために湯を使うため、それを沸かすためのボイラーと、高さ30m、直径1.5mぐらいの巨大な煙突が聳えていたといひます。この製糸工場がいつからあったのかは不明ですが、立川飛行場の開設と陸軍第五聯隊の移転、甲武鉄道の開業とその後の青梅鉄道・南武鉄道・五日市鉄道など諸鉄道が開通したことで立川が三多摩地区の拠点となり、それに伴い戦争拡大から来

る軍需産業の増産体制から、立川に近隣諸県から軍需工場が集まり、鉄道を利用した工員が集中するようになった背景が見受けられます。1941（昭和16）年に陸軍が撮影した空中写真には、大きな工場が建っている様子が伺えます（写真2）。敷地の真ん中に、縦に並んで見える施設が工場と想われます。そして敷地左側に見える施設が事務所と女子工員寮です。女子工員寮は2階建てのものが2棟ありました。1棟200坪ぐらいと言われており、24畳敷きの部屋が1棟4部屋ずつ、2棟で8部屋ありました。東側はロータリーのようになっていてトラックなどが入れるようになっていたようです。

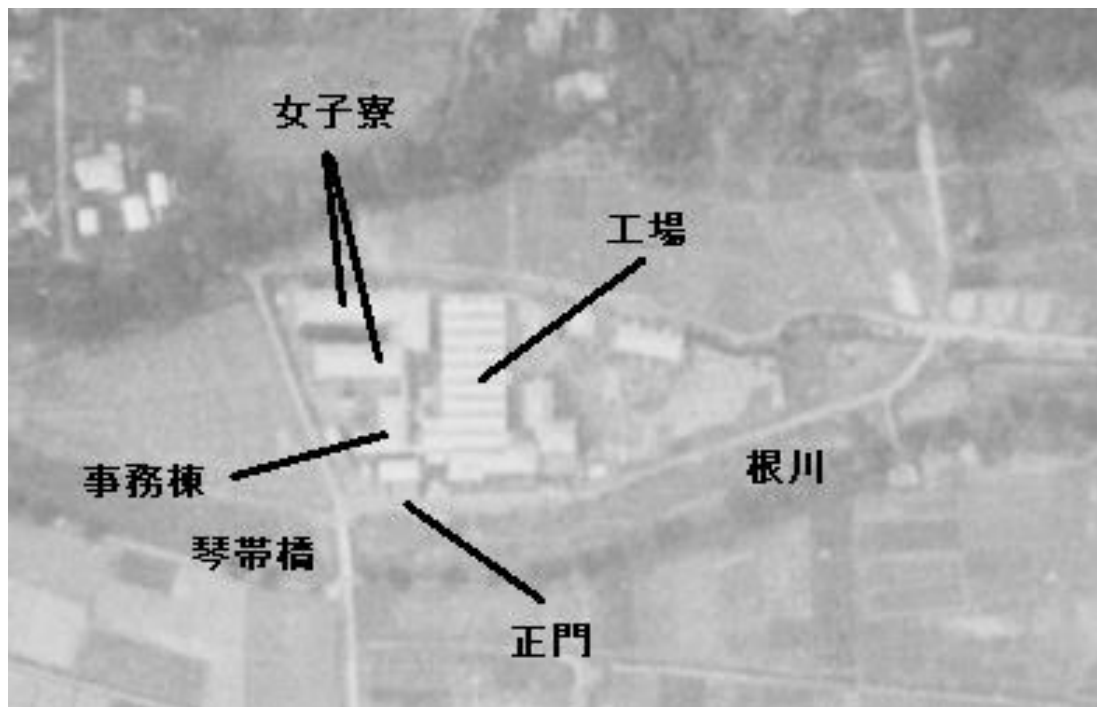


写真2 東京繭糸販売組合連立川工場（1941年7月）

◆日本通信機株式会社立川工場

1943(昭和 18)年5月31日、東京繭糸販売組合連合立川工場は突如閉鎖され、新たに陸海軍・軍令部に納める通信機部品を生産する日本通信機株式会社立川工場が東京社施設をそのまま流用して設置されました。

東京社が閉鎖された理由は不明ですが、1943(昭和 18)年というと、その前年の6月にミッドウェー海戦で日本軍が大敗北を期し、以後連合軍の反撃攻勢で戦局が悪化してくる時期にあたります。立地的に考えると、通信機器等の納入先で、一番近いのが当時立川飛行場周辺にあった航空機メーカーで、工場をゼロから作るより、建物・施設をそのまま流用し、必要機械を運び込めばすぐに稼働できることを考えると、国家総動員法の適用で軍、あるいは政府による強制閉鎖と思われる。

これにより東京繭糸販売組合連合(東京社)は事実上解体され、東京社で働いていた女子工員300~350名は、そのまま日本通信機株式会社へ所属が変更されました。女子工員の中には長野・山形・山梨から女子挺身隊として動員されていた人がおり、その多くは高等女学校生徒でした。この中には都立第四高等女学校(現都

立南多摩中等教育学校)の生徒が30~40名いたといえます。

東京社時代の工場内にあった大きな煙突は、空襲に遭ったときに目標にされるとの理由で、撤去されました。工場では1~2cm四方の、マイカというガラスのような合板を1枚ずつナイフで剥がし、これに薄い錫を1枚合わせ、それを数枚重ねて1個の通信機部品を作っていたといいますが、これだけの情報だけでは何に使う部品か詳細は不明です。

1945(昭和 20)年8月2日未明、立川は焼夷弾爆撃の空襲を受けました。この時空襲目標のひとつになっていた工場は女子寮1棟を残し、全焼しています。幸いにも寄宿していた女子工員は皆無事に避難していて、被害はなかったといいますが、周辺の民家も焼夷弾による甚大な被害を受け、多数の被害者が出ました。女子工員は、その数日後に郷里に帰ったといえます。

1947(昭和 22)年、米軍撮影の空中写真撮影をみると、戦後2年が経過していますが、日本通信機株式会社立川工場の建物が1棟だけ残している様子が伺えます(写真3)。立川空襲後、立川工場が機能不能となったので、日本通信機は、立川工場で働いていた



写真3 日本通信機株式会社立川工場跡地（1947年8月、米軍撮影）

工員に対し、同社の川崎市高津にある溝の口工場への周旋を提示してきたといえます。

この日本通信機株式会社が、終戦後どのようになったか、まだ調査できていません。現在同名の会社があるが、立川にあった会社とはまったくの別会社であり、戦後すぐに財閥解体で企業解体した可能性があります。

焼け残された女子寮は、戦後東京都がリノベーションして、私娼として生活していた女性たちの収容更生施設として利用されたといえます。

◆今後の課題

柴崎町にあった軍事施設ということで調査を試みましたが、柴崎

町にいつから東京繭糸販売組合連合（通称 東京社）があるのか、またその概要や規模はどのようなものか、なぜ日本通信機株式会社になったのか・どのような企業だったのかなど、さまざまな課題が浮き彫りになりました。この施設に関する資料がほとんどないなか、また就業していた関係者が高齢で、調査が難航しているのが実情ですが、色々な課題が山積するなかで、今後徐々に解きほぐしていきたい施設です。

【写真出典】

- 1：立川市歴史民俗資料館所蔵
- 2：国土地理院空中写真閲覧サービス
1941年7月4日
日本陸軍撮影版 C25-C4-152
- 3：国土地理院空中写真閲覧サービス
1947年8月8日 米軍撮影版
USA M389-122

立川市に出現した希少な動物について

立川市文化財保護審議会委員 内野秀重

多摩地区の街中では滅多に目にする機会のない希少な野鳥、トラフズクが立川に群れでやってきているという情報をいただき、令和4年3月、立川市歴史民俗資料館に近い立川市富士見町の現場に確認に向きました。トラフズクは、植栽木のクロマツの樹上におり、高さ5～6mほどのところで枝に9匹ほどがとまり、休息していました（猛禽類は夜行性です）。樹下には、白いフンとともに、近在の多摩川河川敷等で捕獲して飲み込んだネズミ類の非消化物であるペリットがいくつも転がっており、旺盛な食欲が見てとれました。立川の残堀川沿いの段丘崖周辺には緑も多く見晴らしのいいもっと休息に適した樹林地もあると思われるのに、住宅地内の植栽木をすみかとするのは一見理解に苦しむところもありますが、餌場との関係性や安全



樹上で休息するトラフズク

な休息等について、彼らが好む条件を備えていることが推測されます。

トラフズク (*Asio otus*) はフクロウ科トラフズク属の猛禽類の一種で、本州中部以北で局所的に繁殖する留鳥、あるいは本州中部以南で冬鳥として飛来する野鳥です。



樹下に落ちているペリット

東京都のレッドデータブックではEN(絶滅危惧ⅠA類)に指定されており、将来において絶滅の危険性の高い鳥類と考えられています。体長が35cmほどもあり、羽角と呼ばれる耳状の飾り羽を持つのが特徴です。餌としては、主にネズミを捕り、カエルや小鳥も食べていますが、ペリットの中身を見た限り、立川の個体群はほとんどネズミ類を餌にしているようです。近くに河川敷が広がり、北部台地上には国営昭和記念公園のような

広い草地もあることから、トラフズクが生活しやすい場所と言えるかもしれません。トラフズクの繁殖は3月頃から始まるといわれ、今後、この近辺でつがいとなって営巢するのか、関東北部や東北などに北上して繁殖行動を行うのかはわかりません。ただ、他のフク

ロウ類と違って営巢を樹洞内ではなく、カラスなどの古巣を使うことが多いということから、多摩地区内で繁殖行動を行う可能性がないとは言えないと思われます。

私達にできることは、身近な場所にやってきたトラフズクの活動を静かに見守り、春以降どこかに旅だってしまうても再び冬越しに姿を見せてくれるよう、居心地のよい環境を残しておくことが大切なことと考えます。

立川市歴史民俗資料館
公式 Twitter
開設しています!!



企画展や体験学習などの資料館・古民家園のイベントのほか、立川市内の歴史や自然のことなど、色々な情報を発信していきます!



@tachikawa_rekim

令和3年度 資料館・古民家園の催し

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策で、令和3年4月25日（日）から5月31日（月）まで、一般公開を中止しました。他にも感染防止のため、博物館のガイドラインに従いながら、企画展・体験学習・講演会などの催しを行いました。その中の一部を紹介いたします。

1.企画展 立川飛行場と陸軍航空本部一とある技師の記録一



令和3（2021）年は、大正10（1921）年に旧陸軍立川飛行場の設置が決まってから100年目でした。陸軍航空本部立川支^{しょう}廠で技術者として働いていた方の資料を中心に展示しました。ここ数年、企画展開催中に行っているギャラリートーク（展示解説）は、感染症対策で実施しませんでした。開催日数は42日間で、延べ719人の方が来館しました。

2.企画展 昔のくらしと道具



近年、小学校の3学期に当たる時期に「昔の道具」の展示を行っています。小学校3年生はこの時期に社会科の授業で「昔の道具とくらし」を学習するので、それに関連づけたものです。例年では展示物に実際に触れることのできるハンズオン展示を行っていましたが、昨年度同様感染症対策のため今年も中止しました。今年は新しい試みとして 同時期に開催されている写真展を、この展示に関連づけ「写真展 立川での昔のくらし」とし、展示されている道具などに関係のある写真を展示しました。企画展の開催期間は30日で、

延べ 644 人の方が来館しました。

3.講演会 立川駅前の発展—立川駅の変遷をみつめて—



ここ数年、講演会は秋の企画展や1月の多摩郷土誌フェアに合わせて開催していました。コロナ禍で多摩郷土誌フェアは中止となってしまいましたが、講演会は定員を減らす、換気を徹底するなどの感染症対策を取り、開催しました。テーマは立川駅周辺の街の移り変わりで、駅北口を豊泉喜一前立川市文化財保護審議会会長、南口を白川重敏立川市文化財保護審議会委員にご担当いただき、貴重なお話を頂きました。

4.市内文化財散歩 玉川上水 downstream を歩く

屋外を散策する講座は「密」を避けるために定員を減らして実施しています。この講座は今年度から新たに始まった企画です。平成28年から行っている「玉川上水を歩く」と対になっており、「玉川上水を歩く」が西武拝島線の玉川



上水駅より上流を歩くのに対し、「玉川上水 downstream を歩く」では、玉川上水駅より下流を中心に歩きました。講師はともに立川市文化財保護審議会委員の小坂克信さんです。当日は玉川上水駅を出発し玉川上水沿いに^{ひやくこく}百石橋まで歩き、その後は川越道緑地古民家園等を経て多摩モノレール砂川七番駅で解散しました。講師のお話を聞きながら、約6kmを3時間半かけて散策しました。

5.手打ちそば・手打ちうどん作り



昨年度は手打ちそば、うどん作りなどの伝統食の講座は感染症対策のため中止としましたが、今年度は定員を減らし、試食を行わな

いことで、講座を再開しました。そば作りとうどん作りの講座はとも人気のある講座で、定員を減らしたこともあり、申し込み開始後すぐに定員に達してしまいました。当日は参加者全員が「練り」、「伸ばし」、「切り」などのそばやうどん作りの工程を体験しました。



制にして、実施しました。当日は80名近くの方の来館がありました。はた織り体験を実施するのは、令和元年夏以来で、村山大島紬の展示解説、特製しおりのプレゼントも行い、2年半ぶりに賑やかなはた織りまつりとなりました。

6.第17回はた織りまつり

前年度、前々年度は感染症対策のため、はた織り体験などは中止になってしまいました。今回ははた織り体験を時間指定の完全予約

令和3年度 企画展

展 示 名	期 間	場 所
ミニ企画展 端午の節句	4/6 (火) ~5/9 (日) 予定 4/25 以降は一般公開中止	資料館・ 古民家園
企画展 新収蔵品展	6/15 (火) ~7/11 (日)	資料館
ミニ企画展 七夕飾り	7/1 (火) ~7/7 (水)	資料館・ 古民家園
企画展 立川の遺跡2021	7/27 (火) ~9/5 (日)	資料館
写真展 立川駅前の移り変わり—駅ビルとモノレールができるまで—	9/11 (土) ~10/10 (日)	資料館
企画展 立川飛行場と陸軍航空本部—とある技師の記録—	10/26 (火) ~12/12 (日)	資料館
東京文化財ウィーク2021公開事業 銅鉦鼓展	10/26 (火) ~11/28 (日)	資料館
写真展 立川での昔の暮らし	12/7 (火) ~2/13 (日)	資料館
企画展 昔の暮らしと道具	1/18 (火) ~2/20 (日)	資料館
ミニ企画展 桃の節句	2/1 (火) ~3/6 (日)	資料館・ 古民家園

令和3年度 体験学習

場 所	講 座 名	実 施 日	人 数
歴史民俗資料館	手打ちそば作り	6/6 (日)	18
	手打ちうどん作りと十五夜飾り	9/5 (日)	18
	もちつきと鏡餅作り	12/19 (日)	33
	繭玉飾り	1/10 (月・祝)	18
	手打ちうどん作り	2/13 (日)	10
古民家園	麦刈り体験	5/23(日)	※
	麦脱穀体験	6/27 (日)	19
	さつま芋収穫体験	10/24 (日)	28
市 内	根川と多摩川の自然観察	4/4 (日)	14
	玉川上水沿いの自然観察	5/21 (金)	※
	市内文化財散歩 玉川上水を歩く	10/10 (日)	9
	市内文化財散歩 立川の古村を歩く	11/7 (日)	20
	玉川上水沿いの自然観察	11/19 (金)	15
	市内文化財散歩 玉川上水 downstream を歩く	3/6 (日)	15
	市内文化財散歩 柴崎分水を歩く	3/13 (日)	13

※新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止

令和3年度 講演会

名 称	会 場	実 施 日	人 数
「立川駅前の発展—立川駅の変遷をみつめて—」	女性総合センター アイム	1/15 (土)	30

令和3年度 出張事業 (1)

事 業 名	期 間	場 所
出張講座 昔の道具体験 (市立第五小学校3年生)	12/16 (木)	市立第五小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第一小学校3年生)	1/20 (木)	市立第一小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立大山小学校3年生)	1/25 (火)	市立大山小学校

令和3年度 出張事業（2）

事業名	期間	場所
出張講座 昔の道具体験 (市立第十小学校3年生)	2/3(木)	市立第十小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立柏小学校3年生)	2/8(火)	市立柏小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立幸小学校3年生)	2/15(火)	市立幸小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第九小学校3年生)	2/17(木)	市立第九小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立第六小学校3年生)	2/25(金)	市立第六小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立松中小学校3年生)	3/4(金)	市立松中小学校
出張講座 昔の道具体験 (市立南砂小学校3年生)	3/8(火)	市立南砂小学校

令和3年度 その他事業

事業名	期間	場所
第17回はた織りまつり・春	3/20(日)	資料館

資料館だより 第26号

発行日 2022年(令和4年)3月31日

編集・発行 立川市歴史民俗資料館

(立川市教育委員会教育部生涯学習推進センター文化財係)

住所 〒190-0013 立川市富士見町3丁目12番34号

TEL:042-525-0860 FAX:042-525-1236